

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103417
法人名	医療法人 天陽会
事業所名	グループホーム さくらじま
訪問調査日	平成21年10月14日
評価確定日	平成21年11月24日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670103417
法人名	医療法人 天陽会
事業所名	グループホーム さくらじま
所在地	鹿児島市 野尻町 49番地1 (電 話) 099-245-0808
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年10月14日

【情報提供票より】(平成21年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 10人, 非常勤 8人, 常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜島病院 中央病院 中央クリニック 福重歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

錦江湾や桜島という大自然に抱かれた地にホームは建てられており、「自然とのふれあい」や「喜びのある生活」「心からの笑顔」を大切にしながら運営している。同一法人が運営する病院に隣接しており、定期的な受診やリハビリテーション、急変時の対応等、医療面での充実した支援に加え、火災や風水害等の防災体制においても連携が図られ、入居者は安心して過ごすことができる。研修機会が多く、職員は日々研鑽しながら介護および看護技術の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	【地域とのつきあい】地域の文化祭に参加して、地元の方々との交流に努めている。 【同業者との交流を通じた交流】他のグループホームとの相互訪問により職員の交流を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。 【栄養摂取や水分確保の支援】新たに「食事と水分摂取状況表」をつくり、食事量に加えて水分摂取量の記録を行い、入居者の健康管理に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についての考え方を理解して全職員で実施しており、各職員の意見を協議しながら全体の取りまとめが行われている。評価の結果明らかになった課題については、対策を検討し改善へ向けて段階的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、ホームの取り組み内容について報告が行われている。現在抱えている課題に対して、各委員それぞれの立場から提案をもらい、ホームの運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置をはじめ、ご家族が面会に来られた際に意見を聴いたり、行事アンケートなどを実施して意見を求めている。また、ご家族の代表者へ意見を伝えてもらうなどして、ホーム外での意見集約にも努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者の状態変化に伴い、皆と一緒に地域行事へ参加することは限られてきているが、周囲からの孤立や疎外感を持つことのないように、なるべく多くの交流機会を持てるように努めている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自然そのものを地域としてとらえ、住み慣れた地域の中で暮らし続けることを理念として掲げている。地域住民との交流を含んだ地域密着型サービスの考え方に関しては、やや伝わりにくいと思われる。	○	地域との交流については実際に取り組んでいるので、地域密着型サービスとしての具体的な内容が伝わるように、理念についてさらに検討を進めていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し毎日唱和していることに加え、広報誌への掲載や家族会等を通じて、対外的にも周知されている。隣接する通所サービスの利用者や幼稚園児とふれ合う機会をつくるなど、具体的な取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の状態変化に伴い、皆で一緒に地域行事へ参加することは限られてきているが、周囲からの孤立や疎外感を持つことのないように、なるべく多くの交流機会を持てるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についての考え方を理解して全職員で実施しており、各職員の意見を協議しながら全体の取りまとめが行われている。評価の結果明らかになった課題については、対策を検討し改善へ向けて段階的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、ホームの取り組み内容について報告が行われている。現在抱えている課題に対して、各委員それぞれの立場から提案をもらい、ホームの運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議以外にも入居者の生活課題や支援困難ケースについて、その都度相談している。ホームの実態を見てもらうために、行事への参加についても呼びかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りが入居者の暮らしぶりや健康状態を報告し、金銭管理については出納帳のコピーおよび領収書を送付している。ご家族が面会に来られた際には個別面談を行っており、急ぎの用件については電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をはじめ、ご家族が面会に来られた際に意見を聴いたり、行事アンケートなどを実施して意見を求めている。また、ご家族の代表者へ意見を伝えてもらうなどして、ホーム外での意見集約にも努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットが一体的に運営されており、職員は両方のユニットの状況を理解して入居者とも馴染みの関係ができていく。職員の異動がある場合には十分な引き継ぎ期間を設けて、入居者への影響が最小限に抑えられるような体制がとられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの勉強会や法人内研修、外部研修など、勤務しながらでも全職員が学習する機会を与えられている。参加できなかった職員には報告書などを使って伝達し、共有化が図られている。	○	研修機会は十分に確保されているので、個々の職員の経験や立場、習熟度などを踏まえた計画的な育成により、さらなる資質の向上に取り組まれることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会への参加や交流の機会を設けている。また、職員を他のグループホームで研修させることで、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には事前にホームを見学してもらい、実際の雰囲気を理解した上で入居の検討をしていただいている。また、入居後も、なるべく早くホームに馴染んでもらえるように、ご家族の協力も得ながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と短時間でも協働する時間をつくり、得意分野で活動していただけるように努めている。その中から職員も学ぶ機会を得て、次に活かしていくという支え合いの関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の暮らし方への意向や思いについては、日常生活の何気ない会話や、夜勤帯の静かな環境でお話しする中で把握している。それらは経過記録などに記録しており、申し送りの場面等を通じて職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者およびご家族から暮らしへの意向を聞き取り、今後の課題解決や思いの実現に向けて、職員を交えた必要な関係者間で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化についてモニタリングを行っており、6ヶ月毎の定期見直しの他、状態変化の際はその都度話し合いを行いながら、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者およびご家族の、その時々起こる要望に対して、医療連携体制を整えたり、ホーム単独で困難なことも、地域との連携や法人からの協力を得て柔軟に対応できるように努めている。		
を					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の通院や往診支援の中で、かかりつけ医との連絡・連携を行い、日常生活における入居者への対応方法についての助言を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後の早い時期から、入居者およびご家族の重度化へに向けた意向を聞き取り、方針の統一と共有が行われている。その後の状態変化に際しては、その都度、本人やご家族の意向を確認し、かかりつけ医との意見交換も行いながら方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては、事務所において適切に管理している。入居者の誇りやプライバシーに関して、管理者および職員の意識は高く、常に念頭に置いてケアにあたっている。しかし、時折忙しさから否定的な言葉や大きな声が出てしまうこともある。	○	入居者の尊厳と権利を守るためにも、引き続き高い意識を持って取り組み、さらなるサービスの質向上に努めていただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の基本的なスケジュールはあるが、業務を優先することなく、一人ひとりに合ったペースで行動できるように、健康状態やケア体制なども考慮して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや後片付けなど、それぞれの方の力に合わせて参加してもらっている。食事内容は入居者の嗜好に合わせており、職員も一緒に同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決まっているものの、入浴は毎日できる体制にあり、入居者の希望や状態に応じて個別に対応している。入浴を拒否される方に対しては、時間帯や職員を変えて声をかけるなどして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や特技、趣味などを理解し、得意とすることやこだわり、楽しみにしていることを生活の中に取り入れて、一人ひとりに合った役割や出番を設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接する通所サービス事業所や病院へ出かけたり、入居者の希望に応じて庭へ出るなど、天候や降灰への配慮を行いながら、ホームに閉じこもらない生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に施錠は行わず、自由に行き来できる環境である。落ち着かれない入居者に対しては、寄り添って時間を過ごすなどしながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的実施して、非常災害時に備えて迅速な対応方法を学んでいる。また、年1回の大規模災害へ向けた訓練にも、地域の方々と共に積極的に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については栄養士に助言を受けており、バランスやカロリーに配慮されたものとなっている。食事量や水分量の記録及び体重測定を行い、状態の変化を観察しながら状況に応じた柔軟な対応が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や装飾品で季節感を演出し、大勢で賑やかに過ごしたり、一人で静かに過ごせるスペースづくりに配慮されている。換気が行き届いており、テレビの音量や照明も、入居者が不快に感じないように調整されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がこれまで使用していたものが持ち込まれ、思い出の写真や手作りの品が飾られている。入居者それぞれに、居心地良く生活しやすいような家具の配置がなされている。		